

探訪 北の風景 ⑦

美瑛軟石で美しいまちづくり

上川管内・美瑛町

青木和弘

四季折々、美しい丘の風景で人気の上川管内美瑛町を訪ねた。車で旭川から富良野方面に国道237号で向かい、「せるぶの丘」を少し越えて左に折れ、JR富良野線の踏切を渡り、信号を右折して美瑛商店街のメインストリートに出る。

とんがり屋根のしゃれた建物が並ぶこの街の色合いを特徴づけるのは白っぽいグレーだ。その正体は石英の粒子が見える美瑛軟石で、建物や街路の随所に使われている。JR美瑛駅や、道の駅・びえい「丘のくら」は、この美瑛軟石造りで、市街地の要となつて景観に統一感を与えている。



かつて美瑛観光といえば白金温泉と国設十勝岳スキー場、そして十勝岳登山だった。美瑛の丘の風景は70年代、写真家・前田真三氏の作品で全国に知られるようになり、テレビコマーシャル「ケンとメリーのスカイライン」や「マイルドセブンの丘」などの放映で、一気に人気となった。

さらにいま、美瑛在住の写真家、ケント白石氏の作品で白金温泉地区の「青い池」が世界的に知られるようになり、付近の道路は大渋滞を引き起こすほどブームになっている。同町の昨年度の観光入り込み数は149万人を超え、農村景観を核にした美しいまちづくりが花開いた感がある。

美瑛は、江戸時代末期から5回の噴火を繰り返してきた十勝岳のすそ野にあつて、地勢は波状の丘陵地。年平均気温は5.2度と低い。ちなみに札幌は8.9度、東京は16.3度である。寒暖の差が激しい内陸性気候である。

大正期、十勝岳の中腹に「丸谷温泉」と「畠山温泉」があつたが、1926年（大正15年）の大噴火で両方とも泥流に飲み込まれて消滅した。1950年（昭和25年）に町のボーリングで深度396メートルから熱湯が噴き出し温泉探査に成功。当時の鴻上覚一町長が「地下からわいたプラチナの価値」と述べたことから白金温泉と名付け



人気の「青い池」。写真を撮るなら早朝は欠かせない

られ、温泉街が形成されたが、その後も62年と88年の2回、噴火に見舞われている。88年の噴火でスキー場が閉鎖になり、その後、リフト施設も撤去された。いまは、温泉街に、いざというときの避難路が整備されている。

美瑛町が商店街や白金温泉地区の街並み整備に取り組んだのは1989年（平成元年）からだ。商店街再編整備助成条例をつくり、美瑛軟石の使用を促した。

一方、農村景観の資源化はフランスの取り組みを参考に05年、全国7町村で「美しい村連合」を発足させた。北海道は美瑛町と赤井川村、山形県



とんがり屋根の建物と広い舗道の随所に美瑛軟石が使用されている美瑛商店街



望岳台から噴煙を上げる十勝岳を望む

大蔵村、岐阜県白川村、長野県大鹿村、徳島県上勝町、熊本県南小国町で、事務局は美瑛が担う。いまでは46町村7地域に増えた。

美瑛観光には、3つのエリアがあることを知っておくと便利だ。JR富良野線の北西側は、テレビコマーシャルで登場した人気スポットがたくさんある。南東側は前田真三氏の写真で知られる見どころが多い。もう1つが白金温泉地区で、温泉街の手前に「青い池」などがあり、温泉街の先に十勝連峰を望む望岳台がある。

美瑛の旅で忘れてはならないのが温泉である。日帰り入浴もできるので、源泉掛け流しの良質な湯をぜひ味わってほしい。